

ホテルニューグランド

所在地 横浜市中区

建物用途 ホテル

竣工 1927年

改修 1992年

所有者 横浜市

(株)ホテルニューグランド

設計者 清水建設一級建築士事務所

施工者 清水建設(株)



〈審査評〉 幕末から明治にかけて外国人居留地だったこの地に、外国人用ホテルとしてホテルニューグランドの前身グランドホテルがつけられたのは1873（明治6）年である。しかし、関東大震災（大正12年）によって、壊滅してしまった。当時の横浜は日本の玄関口として、重要な貿易港として、欧風ホテルの建設が急務であった。横浜市と地元財界人の尽力によって再建されたのが、現在のニューグランドホテル本館と聞く。設計は国会議事堂の競技設計に入選して間もない新進気鋭の建築家・渡辺 仁（39歳）が選ばれ、施工は築地ホテル館（明治元年）などの実績を買われて清水組が請負い、1927（昭和2）年に竣工した。

このホテルの改修計画は、横浜市のMM21計画にみられるような21世紀に向けての国際都市・横浜の再生計画に呼応するように始められたという。老朽化した施設の再生と、新しい時代のホテルの建設である。今回、審査対象の本館の復元・再生は、隣接する駐車場に新館を建設することによって、増築に増築を重ねてきた本館の機能と施設を新館に移すことによって、本館の当初の姿に復元・再生することが可能になったといえる。設計にあたっては、ホテルニューグランドの歴史を継承しながら、本館と新館の時代性や機能を対比させ、2つの建物が個性と役割を果たしあいながら主張し調和することをめざしたという。そうした意味からは、より積極的な時間と空間の織りなす復元・再生計画といえる。

本施設のBRB部門としての評価点は、まず第一に60余年経過した建物を、建設当初の姿に限りなく近く復元していることである。蔽密に言えば1階（建設当時はGround floor）の機能は建設当時とは異なり、中庭を創建当時に回復し、これらとの連続性や、新設のエントランス・ホールとの関係からすれば、より理想的な計画配置になっている。さらに、中庭広場は創建当時の広さに戻されただけでなく、背景に正面ファサードをくり返すデザインによって、より歴史的な雰囲気演出し、中庭型公開空地として市民に開放されていることは特筆できる。第二は新館部分に主機械室を移動することにより、コ・ジェネレーションによる省エネ化や質の高い設備サービスを確保したことである。第三は、耐震診断による耐震壁の補強・増設や防火区画、スプリンクラーの設備が意匠を損なうことなく細心の注意と工夫によって施工されている。歴史的建築を改修する難問に対する技術的解答を出している点である。第四は、残す部分のリフレッシュである。外壁洗浄をはじめ、内部の花崗岩や擬石壁、タペストリー、天井、照明器具、さらに家具にいたるまでの補修再現は、経年変化の味わいを残しながら完成している。第五は、改修工事を行ったJ. H. モーガンのデザインも5階のレストラン階に復元されている点である。こうしたことは、設計者だけでできることではない。このホテルの端緒と同じように、横浜市、建築主、施工者が協力し、理解しあってはじめて可能なことである。ニューグランドホテル本館は文字通り幸せな建築である。

港・横浜の顔として多くの人々に親しまれてきた建築が、復元・再生され、新しい時代の顔となり、歴史を築いていくことを願う次第である。